

四月二十六日、じようおほとものすくねいけぬしむろつみ掾大伴宿禰池主の館にし  
て、せいちやうし税帳使の守大伴宿禰家持にかみおほとものすくねやかもち餞する宴の  
歌うたあは并せて古歌四首

三九九五番

玉梓たまほこの道みちに出いで立たち 別わかれなば 見みぬ日ひさまねみ 恋こひし  
けむかも

三九九六番

我わが背せ子こが 国くにへましなば ほととぎす 鳴なかむ五月さつきは  
さぶしけむかも

三九九七番

我あれなしと なわび我わが背せ子こ ほととぎす 鳴なかむ五月さつきは  
玉たまを貫ぬかさね

石川朝臣水通の橘の歌一首

三九九八番

我わがやどの 花はな橘たちを 花はなごめに 玉たまにそ我あが貫ぬく 待また  
ば苦くるしみ

守大伴宿禰家持の館に飲宴する歌一首

三九九九番

都みやこ辺へに 立たつ日ひ近ちかづく 飽あくまでに 相あひ見みて行ゆかな 恋こ  
ふる日ひ多おほけむ